

# 輸出事業計画

## ※申請者名：山形県、品目：コメ

### 1. 輸出における現状と課題

#### ○現状

- 山形県産農産物の輸出は増加傾向であるが、高価格・小ロットが中心であり、輸出の主流となっているミドル層向け、大ロットでの販売が進んでいない。
- 本県の輸出先国・地域別では、香港、台湾、ASEAN等のアジア圏への輸出割合が大きいですが、北米・豪州・欧州等ではアジア圏と比較して輸出が進んでいない。
- 輸出される県産米のうち、「つや姫」「雪若丸」「はえぬき」の3品種で全体の8割を占めるが、生産者などからは、高温に強く、収量性が高い新品種の導入が強く求められている。
- 新品種「ゆきまんてん」は、輸出が期待される品種であるものの、残留農薬や重金属基準への対応、現行品種とのすみ分けなど、栽培方法や流通に関する検討が不十分であるため、今後検討の必要がある。

#### ○課題

##### 【推進体制】

- 海外需要に対応できる生産体制確保（生産面）と、海外需要の掘り起こし・精密なニーズ把握等の海外販路の開拓のための取組（物流・販売）を両輪的に実施していくことが課題。

##### 【生産】

- 主食用米の価格が高騰する中、輸出用米の作付面積が減少することが懸念。また、より多くの需要を得るためには価格競争力は重要であり、生産コスト削減が求められる。

##### 【物流】

- より多くの需要を得るためには価格競争力は重要であり、物流コスト削減、輸送時のロス率の低減が課題。

##### 【販売】

- アジア依存度が高く、市場分散が不十分。欧州・北米などの有望市場で販路開拓・マーケティング不足。
- 令和9年デビューの新品種「ゆきまんてん」については、デビュー前に現地のニーズや嗜好、購買傾向などの把握が必要。

### 2. 輸出事業計画の取組内容

#### 【推進体制】

- 「山形県産米輸出戦略会議」を組織し、各メンバーのこれまでの輸出の取組みを踏まえた課題や展望について議論する。

#### 【生産】

- 異常高温下においても、輸出先が求める大ロット・低価格の需要に対応しうる品種「ゆきまんてん」について、大規模化に対応した省力・低コスト栽培技術を確立する。輸出用米専用栽培マニュアルを作成する。
- 輸出先国の残留農薬や重金属の基準値に対応した現地栽培を実施するとともに、各種分析を実施する。

#### 【物流】

- 輸出時に通常用いられる船便において、ドライコンテナ・リーファーコンテナを活用してのロス発生割合等を比較検証する。輸送前後の各種成分分析も実施し、物流面のコストと品質の両立を検証する。（コスト×品質の最適化）

#### 【販売】

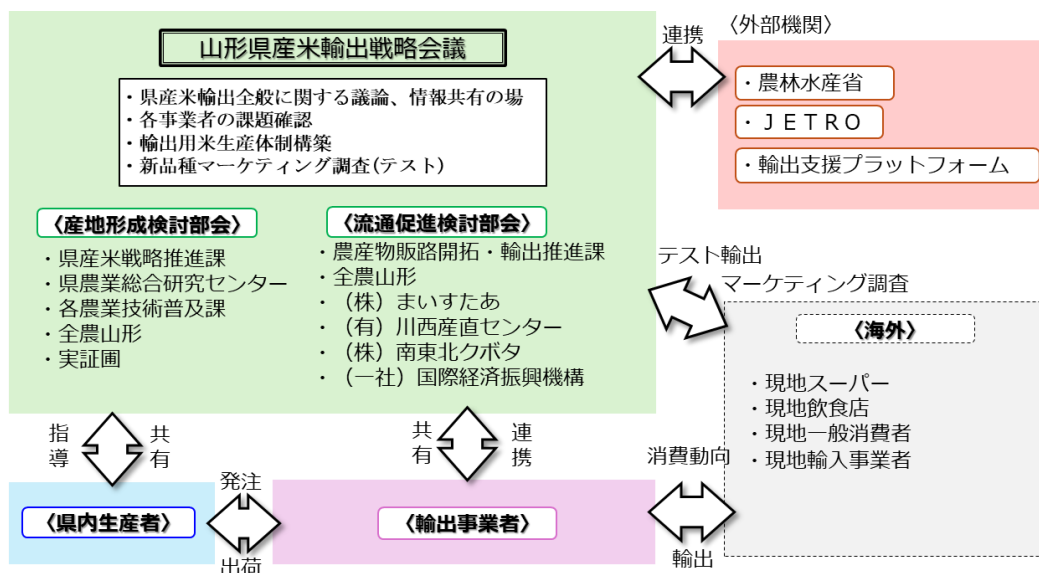
- 海外の一般消費者、レストラン関係者、バイヤーや小売関係者等を対象にアンケート等による品質・食味調査を実施し、ターゲット国における実需者や一般消費者に対する求評調査を実施。

# 輸出事業計画

## ※申請者名：山形県、品目：コメ

### 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

- 山形県産米輸出戦略会議を核として、県産米輸出について生産～販売を横断的に議論。
- 栽培実証データやテスト輸出・マーケティング調査に基づく販路拡大を図る。
- 適時に輸出用栽培マニュアルのアップデートを行うほか、「ゆきまんてん」本格デビュー（令和9年）に向けた販売戦略の検討を実施。



### 4. 輸出目標額

	現状（令和6年）	目標年（令和8年）	備考
輸出額(千円)	195,235	230,519	
輸出量（t）	887	1,048	
輸出先国	ドイツ・香港	ドイツ・香港	
生産量（t）	2,200 (県からの輸出数量全体)	2,600 (県からの輸出数量全体)	